

分科会討議日程

第2分科会「外国語活動・外国語教育」

共同研究者氏名(所属)	中村 洋一 (清泉女子短大)	室井 美稚子 (清泉女学院大学)
分科会役員氏名(学校名)	室井 明 (須坂高校)	丸山大樹 (飯山高校)

11月4日(土)

時間割	レポート題名	学校(支部)	氏名	
討議Ⅰ 13:00～ 15:00	討議の柱:			
	1	課題提起	飯山高校 (高水須坂)	丸山大樹
	2	対話を促す授業づくり	丸子修学館高校 (上小)	盛田 彩花
	3	オーストラリアとの交流 実践報告	松本市立開智小 (松塩筑)	中田 達弥
	4	リテリング指導のあり方～Unit Questionの設定について～	飯田市立高陵中 (下伊那)	鈴木 殊恵
	5	共同研究者による「新しい学びの指標」ミニレクチャー	清泉女学院短期大学	中村 洋一
討議Ⅱ 15:10～ 17:00	討議の柱:実践から学ぶ「さまざまな学習のあり方」について			
	6	単元を通して力を育む単元構想	木曾町立開田中 (木曾)	武田 彩実
	7	須坂高校の「アカデミックチャレンジ」について	須坂高校 (高水須坂)	室井 明
	8	子どもたちが自信をもって考えや気持ちを伝え合うようになるための外国語活動の授業づくりはどうあったらよいか	辰野南小 (上伊那)	大塚 亜耶
	9	既習表現や新出表現を用いて、自分の考えや気持ち、事実など、伝えたいことを相手に正しく伝わるように英語で表現するための指導のあり方～生徒が表現したい、伝えたいという願いを持ち、主体的に追究する学び「思考力、判断力、表現力等」を育む言語活動を通して～	伊那市立伊那中 (上伊那)	長田 彩
討議Ⅲ 17:00～ 17:30	まとめ			

参加者への 連絡事項	
---------------	--

2023年度

長野県教育研究集会（県教研）

「外国語教育」課題提起

丸山大樹（飯山高校）

「過去に何が行われ、それをどのよう
に総括し、誰がどう責任を取った
のか。こういうた歴史を振り返るこ
となしに、過去と同様の失敗を繰り
返すことは避けなければなりません。
ん。」

(久保野, 2021)

年	特徴など	科目(単位)
昭和22 (1947)年 試案	<p>「英語で考える習慣を作るためには、忠実にまねること、何度も繰り返すこととたくさん さんの応用とが必要である。このために、一学級の生徒数は30名以上になること は望ましくない」</p>	外国語(英語)(各学年 5)
昭和31 (1956)年 改訂版	<p>外国語科は、外国語の聞き方、話し方、読み方および書き方の知識および技能を伸 ばし、それをとおして、その外国語を常用語としてしている人々の生活や文化について、 理解を深め、望ましい態度を養うことを目標とする。</p> <p>※「試案」が削除される</p>	第一外国語(3 or 15) 第二外国語(2 or 4)
昭和33(1958)年 昭和35年10月施行	<p>1 外国語の音声に習熟させ、聞く能力および話す能力を養う。 2 外国語の基本的な語法に習熟させ、読む能力および書く能力を養う。 3 外国語を通して、その外国語を日常使用している国民について理解を得させる。</p> <p>※「法的拘束力」の強調 「能力主義」の推進</p>	英語A(9) 英語B(15)
昭和45(1970)年 昭和48年施行	<p>外国語を理解し表現する能力を養い、言語に対する意識を深めるとともに、国際理解 の基礎をつちかう。</p> <p>このため、</p> <p>1 外国語の音声、文字および基本的な語法に慣れさせ、聞き、話し、読み、書く能力 を養う。 2 外国語を通して、外国の人々の生活やものの見方について理解を得させる。</p> <p>※「国際理解」 「後期中等教育の多様化」</p>	初級英語(6) 英語A(9) 英語B(15) 英会話(3)

年	特徴など	科目(単位)
昭和53(1978)年 昭和57年施行	<p>外国語を理解し，外国語で表現する能力を養うとともに言語に対する関心を深め，外国の人々の生活やもの見方などについて理解を得させる。</p> <p>※「ゆとりと充実」「中学校週3体制」</p>	<p>英語 I (4) 英語 II (5) 英語 II A、B、C(各3)</p>
平成元(1989)年 平成6年施行	<p>外国語を理解し，外国語で表現する能力を養い，外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに，言語や文化に対する関心を高め，国際理解を深める。</p> <p>※「新学力観」「生徒の関心・意欲・態度を重視」</p>	<p>英語 I (4) 英語 II (4) OCA、B、C(各2) リーディング(4) ライティング(4)</p>
平成10(1998)年 平成15年施行	<p>外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。</p> <p>※「生きる力」「週5日制完全実施」「SELHi・教育特区」 「学力低下問題」</p>	<p>OC I (2) OC II (4) 英語 I (3) 英語 II (4) リーディング(4) ライティング(4)</p>
平成21(2009)年 平成25年施行	<p>外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。</p> <p>※「脱ゆとり」「グローバル人材」</p>	<p>C英語基礎(2) C英語 I (3) C英語 II (4) C英語 III (4) 英語表現 I (2) 英語表現 II (4) 英語会話(2)</p>

新学習指導要領をめぐって

- ・ 小学校「外国語」教科化

→ 「英語嫌い」の早期化、家庭の経済格差が学力差に

- ・ 中学校「教科書が難しい！」

→ 語彙、文法事項の増加、都立高校入試におけるESAT-J

- ・ 高校 観点別評価

→ どうやって評価をするか...

現行

「コミュニケーション英語」

「英語表現」、「英語会話」

(語彙数)

小学校
(指定なし)

中学校
1,200

高校 (コミュⅠ)
400

高校 (コミュⅡ)
700

高校 (コミュⅢ)
700

Total
3,000

読む、聞く、書く、話す (4領域)

新課程

「英語コミュニケーション」

「論理・表現」

小学校
600～700

中学校
1,600～1,800

高校 (コミュⅠ)
400～600

高校 (コミュⅡ)
700～950

高校 (コミュⅢ)
700～950

Total
4,000～5,000

読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと
読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと
こと[やり取り]、話すこと[発表]
(5領域)

全国学力調査 スピーキングテスト

朝日新聞デジタル > 記事

中3英語スピーキング、正答率12% 0点が6割 全国学力調査

久永隆一 2023年7月31日 17時00分



2023年度

全国学力調査の結果

各教科の前回調査の正答率は、英語のみ19年度。それ以外は22年度

教科	前回調査 の正答率	23年度 の正答率	
英語「話す」	30.8%	▶ 12.4%	
英語「聞く、読む、書く」	56.5%	▶ 46.1%	
数学	52.0%	▶ 51.4%	
国語	69.3%	▶ 70.1%	
小学6年生	算数	63.3%	▶ 62.7%
国語	65.8%	▶ 67.4%	

各教科の正答率

文部科学省は31日、小6と中3を対象とする今年度の全国学力調査の結果を公表した。4年ぶり2回目の実施となった中3の英語では、「聞く、読む、書く、話す」の4技能のうち「話す」の平均正答率が1割強にとどまった。文科省は問題の難易度が高かったと認めつつ、「学習状況に課題があることも明らか。授業改善につながる研修の支援などに取り組む」としている。

三角形の面積、基本問題で正答率2割
専門家「衝撃的」全国学力調査 →

「中3英語スピーキング、正答率12%
0点が6割」全国学力調査」（朝日新聞
デジタル 2023年7月31日）

<https://www.asahi.com/articles/ASR70552PR7XUTIL01X.html>

全国学力調査 スピーキングテスト

中学英語のスピーキング 平均正答率4.2%の問題も

今回の全国学力テストでは中学校の英語のスピーキング問題があわせて5問出され、中には平均正答率が4.2%となった問題もありました。

はじめに動物園で留学生を案内する場面を想定し、相手の英語を聞き取った上で解答時間内に英語で答えたり質問したりする問題が4問出題されました。

NHK

(通常) - 大問 1

あなたは、オーストラリアからの留学生ソフィアのために動物園へ行く予定をたてました。今日がその当日です。会話が続いていくように、質問に答えたり、あなたの考えを伝えたりしましょう。指示がある場合は、その指示に従って答えましょう。

問題は (1) から (4) まであります。解答時間は (1) から (3) が7秒、(4) が20秒です。それでは、始めます。



あなた
ソフィア

このうち、看板に日本語で書かれたゾウの誕生日を英語に訳す問題の正答率は19%、園内どこを回るかなど次の予定を伝える問題の正答率は9.4%、カンガルーが食べるものについて英語で質問する問題の正答率は13.4%、凶鑑、クッキー、Tシャツの中から4歳の男の子へのお土産としてふさわしいものを選び、その理由を伝える問題の正答率は16.1%でした。

最後に環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、それに対する自分の考えと理由を伝える問題が出題されました。

具体的にはニュージーランドの留学生が「日本ではプラスチック製の袋を店で売るのをやめるべきだ」と発表したことに対して、自分の意見や理由を英語で伝えるという問題で、正答率は4.2%とすべての設問の中で、最も低くなりました。

「中学「英語」話す力や書く力に課題 全国学力テスト 結果公表」(NHK 2023年7月31日)

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20230731/k10014147941000.html>

観点別評価をめぐって①

・2001年学習指導要領以降、「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」が採用された。学校では、評価が主観的にならないようにするため、目標にどの程度達しているかを示す材料・資料集めに追われ、「評価疲れ」の状況が生まれている。これを繰り返すことになる。

観点別評価をめぐって②

- ・「妥当性」は担保されるのか。

「主体的に学習に取り組む態度」を評価対象とすることが可能なのか。

- ・「信頼性」は担保されるのか。

「評価者間信頼性」（評価者が異なっても同じ採点が行われるのか）と「評価者内信頼性」（同じ評価者が一人の子どもを何度か評価しても同じ採点になるのか）を担保することは可能なのか。

- ・公正性は担保されるのか。

評価対象となる生徒の家庭の経済資本、文化資本、教育資源の格差がある中で、評価の公正性を担保できない。

観点別評価をめぐって③

観点別評価、先にありきで、評価結果を導き出すためのパフォーマンス課題が教科ごとに実施される逆転現象が起きる。ポートフォリオ評価により長期的に学習活動等の見取り行われるが、一層の教育活動の多忙化を招くことになることが危惧される。

都立高校入試における「ESAT-J問題」

- ・東京都の「英語スピーキングテスト（ESAT-J）」を都立高校の入試に利用。本来「アチーブメントテスト」であるESAT-Jは、「入学試験問題」とは性質が異なる。
- ・ESAT-J がGTECに酷似している。「模試」としてGTECを受験している中学校もある。

教育条件の改善と教育の原点

- 教育投資を増やす：OECD平均並みに
- クラスサイズの削減：高校も順次学級規模の縮小を！
- 専任教員の増員による教師の「ゆとり」を

将来を担う子ども達への願いを込めた
教育活動の実践

参考

- ・久保野雅史「歴史の教訓から『主体的に』学ぶ」（『新英語教育』2021年6月号）
- ・New Crown 2（三省堂）
- ・2021年度教育課程研究協議会 総則・特活意見発表（高校教育研究会）
- ・大津由紀雄「東京都の『英語スピーキングテスト（ESAT-J）』が抱える本質的問
題」 https://www.iizuna-shoten.com/column_book/gengokyouikujihyo-9/

対話を促す授業づくり

1 「学校」という場を、最大限に生かしたい

教壇の上に立ち、授業をしていると、ふと考えることがあります。「生徒はせっかく学校に集まって来ているのに、私がしゃべっているだけの授業でいいのか」ということです。現代は様々な教育ツールであふれています。学習ノウハウ本はもちろん、スマホアプリ、教育系のSNSなど、勉強はする気さえあれば、家で自分一人でもできてしまいます。通信制の学校や、リモート授業など、集散しない形の学習もあります。わざわざ「学校」という場所に集まって勉強する意味とは何か、考えることが多くなりました。

学校というシステムには、生徒同士が対話によってお互いから学び合い、人間関係を広げていけることに最大の利点があると思います。特に英語という教科は、やりとりが前提となっている言語の学問です。「英語コミュニケーション」という科目名にあるように、本来英語の授業というのは、教師による説明よりも、生徒同士が英語を使った対話を通して、英語運用能力が伸びていくことが理想だと思います。もちろん、学校というシステムがすべての子供たちに適しているとは限りません。しかし、多くの子供たちが学校という形を選び、また社会から「学校での学び」が求められている以上、教員として、「生徒同士が対話する場がある」という利点を最大に活用しなければいけないと感じています。

しかし、授業はそううまくいきません。いざ授業で「今日はこのテーマについて（英語で）話してみよう。」と投げかけただけで、活発に対話ができるクラスは珍しいと思います。少なくとも、現在私が勤める学校の授業では、クラスが「しん…」となるか、仲のいい友達同士の雑談時間になってしまうことがほとんどです。どのような指示を出せば、対話による学習が活発になるのか、日々頭を悩ましているのが現状です。

このレポートは、対話を妨げる要因を二つ挙げたうえで、各要因に対して具体的にどのようなアプローチをしてきたのかをまとめたものです。まだまだ課題は山積していますが、ここでまとめ実践例を修正しながら、これからも対話を促す授業作りに励んでいきたいと思っています。

2 何が対話を妨げるのか

2-1 能力的要因

対話を妨げる要因は大きくわけて二つあると考えています。一つ目は能力的要因です。英語教科に関していえば、語彙力・文法力・リスニング力など、総合的な英語運用能力の低さが、対話を妨げる原因になります。英語の授業では当然、英語を使用した対話を中心となるべきですが、知っている単語や文法の知識が少なければ、意見を述べることもできません。加えて英語運用能力の低さが、対話することへのモチベーションを大幅に減少させてしまいます。

また、教科に関わらず、「自分の意見を持つ力」の低さも対話を妨げる原因だと考えます。「自分がどう思うのか」という問いに対して、一般論を述べるにとどまったり、考えることを投げ出してしまったりする生徒が多く見受けられます。自分の意見に芯がないため対話が続かない、そもそも考えたこともないので言うことがない、という状態になってしまう場面を何度も見てきました。

2-2 人間関係的要因

二つ目の要因は人間関係的要因です。実は、対話を妨げる最大の要因は、個々の能力的な低さよりも、生徒同士の不信感にあるように感じます。ペアワークやグループワークを設けても、ある特定の人物とは話ができない、また周りに仲のいいメンバーがいないと何も話ができない、という現象はどの教科でも起きている事実です。思春期の子供たちが、不特定多数の同級生と対話することが困難であることは理解できます。しかし、授業という「建前」があるからこそ、話すきっかけができたり、そこから人間関係の広がりを見つけたりすることができるのもまた事実です。教師の一つの役割は、授業という「建前」をうまく利用し、生徒同士が安心して対話できるような環境づくりをすることにあると思います。

3 実践報告

3-1 能力的要因に対するアプローチ

3-1-1 「選んで、台本を作って話す」

新課程となり、教科書の随所に対話を前提としたアクティビティが豊富に記載されています。しかし、英語の運用能力に差のある生徒同士ではなかなか対話がしづらいというのが現状です。そこで、対話の場面ではあらかじめ予想される答えをいくつか用意しておき、そこから選んで答えるという形を多く実践してみました。【例1】は本校の一学年で使用している ALL ABOARD! 1 English Communication1 (東京書籍) の「Lesson 3 A Train Driver in Sanriku」の題で電車がテーマになっているレッスンです。導入部分の活動「Talk! : 次の質問に英語で答えましょう How often do you take a train?」を行った際の過程になります。

【例1】

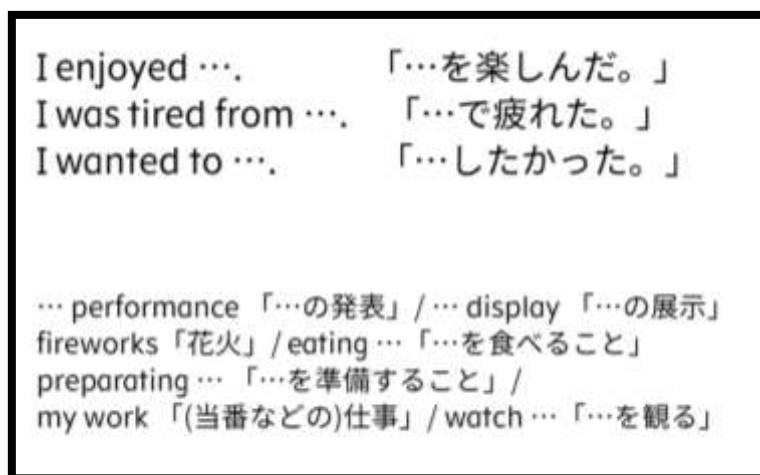
時間	生徒の活動	教師の動き
1分	①教師の後に続き「How often do you take a train?」と発音する。 ②質問の意味を確認し、自分の答えを頭の中でイメージする。	①「How often do you take a train?」と板書し、音読する。 ②質問の意味を確認する。 ・how often~?「どれくらい (の頻度で) ~?」 ・take (乗り物)「(乗り物) に乗る」
2分	③提示された例を参考に、自分の答えを教科書に書く。 ④必要な場合は、音声発音ソフト等を使用して発音を確認する。	③電子黒板に答えの例 (ロイノートで制作) を示す。(資料2参照) ④机間巡視し、質問があれば答える。
2分	⑤ペアになり、じゃんけんで勝ったほうから英語の質問をする。	⑤ペアワークを始めるように指示をだす。 Make pairs. Please do じゃんけん and the winner starts to ask the question.

(資料1：活動中に映した画面 (ロイロノートのカード))



この活動のポイントは、解答を「選んで書く」という点です。回数 (once, twice, ... times) + 頻度 (a week / a month / a year) から自分の答えに最も近いものを選ぶだけであるため、ほぼ全員が解答を作ることができました。解答例を電子黒板に映すのは、板書する時間を短縮し、スムーズに自分の答えを英語にするためです。また、自分の答えを教科書 (タブレット) に書き込むことで「台本」を作成します。手元に読むべき台本があると、その後の対話活動で、しっかり読む生徒が増えた印象がありました。本来ネイティブが行う対話活動とは異なりますが、準備した「答えの台本」を自分の口で発音することで、頭の中に「自分だけの例文」を増やしていくことがねらいです。

【例2：文化祭明けの授業での Small Talk : How was the school festival?】



例2は文化祭明けの授業の冒頭で「How was the school festival?」の題で Small Talk を実施した際に使用したロイロノートのカードです。進行方法は例1と同様ですが、教科書の内容ではなく、生徒の学校生活に関連した題になっていることが特徴です。教科書の内容から離れ、このように身近な話題になるほど、「～って英語でなんて言うんですか？」と質問をする生徒も増えた印象がありました。また例1の題と比べると、解答方法に幅がある質問になっています。このような質問の場合は、センテンスの例+単語の例を用意するようにしました。

3-1-2 音声読み上げソフトの活用

例文やタブレットの翻訳機能等を使用することで、ほとんどの生徒が文章（台本）を作ることができますが、最大の難点はそれを読むことです。そこで、インターネット上で無料使用できる音声読み上げソフトの使用を推奨し始めました。「音声読み上げソフト：音読さん」

(<https://ondoku3.com/ja/>) は、入力した任意の英語を音声として生成し、再生できるものです。生成した英語はダウンロードして保存することも可能になっています。英語はアメリカ英語・イギリス英語・オーストラリア英語・インド英語に対応しています。

このソフトの最大の利点は、任意に入力した文章をかなり自然な形で読み上げてくれるという点です。実際、教科書の本文を入力して聞いてみても、教科書付属の CD とほぼ変わらない発音・流暢さ・アクセントになっており、生徒が見本として聞くために非常に適しているという印象です。授業内で読めない単語・文章がある場合は、タブレットから音を出してよいという指示を出し、使用を推奨しています。まだ使用している生徒があまり多くはありませんが、使用した生徒からは「自分の作った文のお手本が聞けてよかった」「テスト勉強でも使いたい」などの声も聞かれ、これからの使用拡大に大きな期待を寄せています。

3-1-3 活動を習慣化させる

夏休みに入るまで、例 1・例 2 のような 5 分程度でできるやり取りを、できるだけ多く（授業 2 回につき 1 回の目安で）取り入れるようにしました。毎回の定番になってくると飽きてしまう生徒が多いのではないかと懸念していましたが、休み前に「授業内のやりとりの頻度」についてアンケートをとったところ、「ちょうどいい」「もっとやりたい」と答えた生徒の割合が多いという結果でした。生徒の様子を見ていても、「台本作り」⇒「じゃんけんをして発表」という流れが「習慣」となってきた、特に英語が苦手な生徒も「とりあえず例文の中から選んで書けば大丈夫」という認識になってきたように感じました。今後もこの頻度を継続し、生徒にどのような変化があるのかを注視していきたいと思います。

3-2 人間関係的要因に対するアプローチ

3-2-1 恣意的なランダムでペア・グループを作る

昨年度より、Excel のランダム関数を使用して、ランダムでグループ分けをする取り組みをしてきました。しかし、昨年度使用していたシステムには、①各グループの人数が 6/7 人に固定されてしまう ②HR で席替があった時、欠席が多い時などに柔軟に対応できない ③どうしても一緒にできないメンバーになってしまった場合はグループを作り直す必要があるなどの難点がありました。（資料 2）昨年度は 6・7 人のグループに固定して話し合い等のグループワークを進めてきましたが、この人数になると、なかなかスムーズに進まないことが多く、もう少し小さな人数にする必要性を感じました。また②・③の問題が多発し、「ちょうどいい」グループ編成になるまで、ランダムボタンを押し続けることがしばしばありました。

今年度より上記の問題を解決するため、（資料 3）のようにシステムを改良しました。まず表示方法を「教室の座席通り」にすることで、座席の隣同士でランダムのペアを作ることができるようになりました。セル内にはグループ等を表示せず、電子黒板に映した際に、タッチペンでグループを書き込むようにしたことで、活動に合わせてグループの人数を変更することができるようになりました。また、名前が表示されるセルは任意に移動することが可能であるため、座席配置が変わったり際に動かしたり、欠席者が出た場合はそのセルを移動したりすることが可能となりました。また、③の問題が出た際も、該当生徒のみを別の座席に移動（交換）させることで、何度もグループ分けをせず済むようになりました。

生徒には「この座席はパソコンがランダムに決めている」と説明していますが、実際は②や③の問題を回避するために若干の変更を加えています。今年度に入り、何度か使用しています

が、いまのところ大きな問題はありません。新システムも1年ほど継続して使用していきたいと思っています。

(資料2：昨年度のランダム座席表)

2	A	0.486116									
3	B	0.611388									
4	C	0.44627									
5	D	0.541785									
6	E	0.907059									
7	F	0.274211									
8	G	0.939586									
9	H	0.326628									
10	I	0.536428									

		1	2	3	4	5	6	7
Team1	e	K	N	B	f	G		
Team2	T	F	Q	I	U	e		
Team3	h	H	C	D	b	X		
Team4	a	R	Y	W	Z	M		
Team5	J	O	A	L	S	E		
Team6	P	J	i	g	d	k	V	

6/7人のグループ分けが前提としているため、人数の変更ができなかった。

(資料3：今年度のランダム座席表)

1	名前	ランダム	ここを押すと変わる							
2	c	0.64118								
3	i	0.97118								
4	b	0.33128								
5	F	0.56225								
6	M	0.72675								
7	V	0.59956								
8	f	0.51198								
9	K	0.45713								
10	D	0.15979								
11	e	0.17409								

c	f	O	R	h	d				
i	K	B	k	Y	P				
b	D	A	B	T	J				
F	e	O	S	Q	i				
M	N	Z	W	H	a				
V	C	F	L	X					
		I	U						

教室の机配置を前提に全員が席替えをする。
ペアワークは同一色の隣同士で行う。色のついたセルは移動ができる。

3-2-2 好きなメンバーと取り組む⇒発表相手はランダムで

上記の例1や例2のように5分程度の簡単なやり取りをする際は、座席をかえずに、席の隣同士のペアで取り組むようにしています。いつも決まったペアと行うほうが「習慣化」しやすく、スムーズに進むと考えたためです。例3は、レッスンのまとめに用意されている比較的長い文章のやり取りを必要とする活動です。例1・2とは異なり、最初の「台本作り」の活動を好きなメンバーと取組んでよいと指示を出した際の活動経過です。

【例3：Lesson4 Activity】

①リスニングの SCRIPT：下線部の部分を聞き取り、空欄を埋める。

Jun:Where do you want to go next summer?

Sam:I want to go to Okinawa.

Jun:Why do you want to go there?

Sam:Because I like beaches and the sea.

Jun:What do you want to do there?

Sam:I want to swim in the beautiful ocean.

時間	生徒の活動	教師の動き
3分	①CDの音声を聞き、空欄を埋める。Junの三つの質問を教師の後に続いて発音する。	①CDを流す。答えを板書する。Junの三つの質問を、発音する。
7分	②完成したスクリプトを参考に、「行ってみたい場所」について書く。 ③必要な場合は、音声発音ソフト等を使用して発音を確認する。	②「行ってみたい場所」について書くように指示を出す。席の移動は自由とし、話し合いながら答えを書くように伝える。 ④机間巡視し、質問があれば答える。
5分	⑤席を移動し、隣の席の生徒とペアを作る。 ⑥三つの質問を発音する。 ⑦じゃんけんで勝ったほうが最初に質問者を務める。質問者は、相手の答えを聞き取って教科書に書き込む。	⑤電子黒板にランダム座席表を映し、席を移動するように指示を出す。 ⑥もう一度三つの質問の発音を確認する。 ⑦ペアワークを始めるように指示を出す。

この活動の特徴は、比較的長いやり取りをするという点です。質問項目が三つ「Where do you want to go next summer?」「Why do you want to go there?」「What do you want to do there?」あり、それぞれに対する答えを三つ用意する必要があります。

「②行ってみたい場所について書く」の時点では、生徒が席を自由に移動し、好きな相手（もしくは一人）と相談しながら答えを作るように指示を出します。自分の好きな相手と相談しあいながら作ることで、比較的長く複雑な文章であっても教えあいながら完成させることがねらいです。しかし、発表する相手も好きなもの同士にしてしまうと張り合いがなくなってしまうため、発表の相手は教師側がランダムに指定します。そうすることでいつも決まった人物とだけでなく、違う相手と話し合う機会を設けるようにしています。

4 課題と展望

4-1 能力要因に対するアプローチに関して

今年度取り組んできた「例文から選んで、台本を作ってから話す」というやり方は、本来のコミュニケーションの形とは異なります。実施の対話のように、聞いたことをその場で判断し、話すという能力を上げることには適していません。しかし、同じ台本を何度も読むとその内容がすぐ頭から出てくるようになるように、繰り返し行うことで実際の対話場面でも使用することができるようになることが期待できると考えています。現在の課題は、その「繰り返し」をどのように盛り込んでいくかというところにあります。教科書の内容はレッスンごとに異なるのはもちろん、Small Talkも毎回話題を変えるため、同じような回答になることは少ないのが現状です。教師が1年を通して使ってきた表現をきちんと把握し、できるだけ同じ言い回しを使用したり、同じ単語・熟語を使うように意識したりする必要があります。この活動を1年続け、経過を分析したいと思います。

4-2 人間関係的要因に対するアプローチに関して

教師として、生徒にはできるだけ違うメンバーで話し合いなどをし、人間関係の輪を広げてほしいという気持ちがある一方で、実際は非常に困難です。生徒間の関係をすべて把握できるわけでもなく、教師が何も言うべきではない状況もあり得ます。実際、昨年度は、グループワークを頻繁に行ってきましたが、ある生徒からは「グループワークをやるから英語に行きたくない」と言われたこともありました。しかし、あらゆる人物と対話する力は生徒にとって非常に重要です。その力をつけるためにも、授業内の対話活動は減らすべきではないと思います。

私は年度初めのオリエンテーションで「話し合いの場で、意見を馬鹿にする言動を絶対にしない」「誰かの発表の後には必ず拍手をする」「困ったことがあったら相談する」ことを約束し、対話の場面ではこれをよびかけることを意識しています。しかし、それ以外でどのような声掛けをすることが、生徒同士の対話の促進につながるのかは、よくわかりません。これからも様々な方法を試したり、他の先生方と相談しあったりしながら、考えていく必要があると思います。

5 おわりに

インターネットや人工知能の進歩により、対面でのコミュニケーションがどんどん減ってきています。その中で学校というシステムは、生徒同士が対話によって学ぶことができるという点で、非常に重要な場所であると同時に、多くの期待が寄せられている場所であると思います。能力差やモチベーションの低さなどから、対話による学習には様々な困難があることは事実です。しかし、その困難から逃げるのではなく、工夫や趣向をこらし、生徒同士が円滑に対話のできる授業を模索していくことが、教師の使命の一つだと思います。今後も様々な意見を取り込みながら、試行錯誤を重ねていきたいです。

支部名：松塩筑支部

職場名：松本市立開智小学校

氏名：中田 達弥

レポート名：オーストラリアとの交流 実践報告

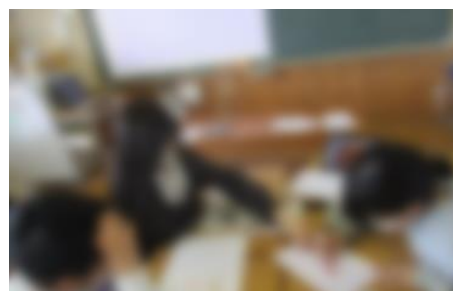
開智小学校には、外国語専科の先生がいるため私自身外国語の授業を持っていない。しかし、ALTを派遣してくださっている「オフィスグローバルサポート」の方に協力していただき、主に総合的な学習の時間にオーストラリアにある現地校とオンライン交流を行っている。その取り組みで見られた子どもたちの様子から、必要感をもって日々の外国語学習に取り組んでいくことが大切だと改めて認識できた。活動の紹介と、課題から必要感をもって外国語学習に取り組むために必要なことや大切にしていることを先生方からアドバイスをいただきたい。以下、オーストラリアとの交流で取り組んできた内容と今後の活動について紹介していく。

1. キャラクター制作



雷鳥や松本城などをモチーフにした
キャラクター製作

オンライン交流を控える中、オフィスグローバルサポートの方から自分たちでオリジナルキャラクターを作り、オーストラリアの学校に送付することができることを教えてもらった。子どもたちに伝えると前向きに「やってみたい!」との声がたくさん出てきたので早速グループごとに制作を開始した。「せっかくなら地域の魅力や特徴を伝えられるようなものにしよう」という意見が出てきて、松本や長野県の特産品や名所などをタブレットで調べながらそれらをモチーフにしたキャラクター制作が始まった。たくさんの情報を手に入れたが「オーストラリアにはないもの、見られないものを取り入れた方が喜んでくれるのでは」と子どもたちは考えキャラクターに仕上げていた。中には簡単な英語を書き加えるグループがあり、相手意識を持って取り組んでいた。また、相手校からも同様にたくさんのキャラクターが届いた。髪の毛の色が金色であったり、目の色が青色であったり、些細なことだが日本と異なる点がたくさんあり、興味深そうにキャラクターを手にとっていた。



グループごと、タブレットで
情報収集

2. 動画撮影

オンライン交流にむけて、当日は開智小の教室や活動を紹介する動画を流すことにした。グループごとに試行錯誤しながらオーストラリアの子どもたちにより分かりやすく、また驚いてもらえるような演出を工夫していた(例えば「和室」の紹介をする際に将棋をしている様子も見せる、「音楽室」の紹介では英語で歌を歌う、「理科

室」で簡単な実験を行うなど)。セリフは外国語の授業で学習してきた既習事項を用いたり、ALTの先生に教えていただいたりしながら考えていた。教科書片手に考える子が多く、子どもたちは既習事項だけでもある程度のことを英語で伝えられることに気づくことができたのではと思う。

(一方で Google 翻訳に頼る姿も多く見られた。特に問題ないことであるのか先生方のご意見をお聞きしたい)



きらきら星(英語 ver)で音楽室紹介

3. オンライン交流



オーストラリアの子に英語で質問

相手校は、日本語を学習しているため日本語で自己紹介をしてくれた。こちらは事前に作成した動画をもとに開智小学校について紹介をした。その後は、学校や生活の様子について互いに質疑応答をしながら親睦を深めた。オフィスグローバルサポートの方が近くでサポートしてくださったので、子どもたちは気兼ねなく質問したり、応答したりすることができ楽しく過ごすことができた。その一方で、なかなか子どもたちに「英

語で質問してみよう、話してみよう」という意識が見られ

なかった。これまで学習してきた知識を用いれば十分英語で伝えられそうな内容(例えば「サッカーが好き?」「どんな食べ物が好き?」など)でもスタッフの方に教えてもらってから、話しかけていた。いきなり英語でのやりとりは流石に難しいが、単語のみだとしても「チャレンジしてみよう」という意識づけや子どもたちが必要感を持って日頃の授業に取り組んでいくことが欠かせないのだと感じた。



相手の日本語に耳を傾ける子どもたち

4. 今後の活動

総合的な学習の時間では、今回紹介させていただいたオーストラリアとの交流に加え、「松本の観光」についても調べている。それも有り、オンライン交流後に「また交流したい」「松本の観光について調べたことをオーストラリアの学校にも伝えたい」といった声が挙がってきた。丁度、教科書に Unit6「This is my town.」(自分の街を紹介する活動)の単元があり、関連づけて学習を進めていきたい。

5. まとめ

昨年度、5年生で外国語が始まり日常的なあいさつや簡単な会話などを積み重ねてきたが、そうした積み重ねを活用して自分からすすんで会話をしようとする姿があまり見られなかった。子どもたちが「英語を学ぶ」という必要感を持って日々の授業に取り組み、授業で得た知識・技能を話したり書いたりして表現できるような単元にしていくために必要なことや大切にしていることなどを先生方からお聞きしたい。

リテリング指導のあり方・Unit Question の設定について

1. 研究の内容

(1) 単元名

Unit3 “The Animals on the Red List” (NEW HORIZON English Course 3 東京書籍)

(2) 単元設定の理由

本学級の生徒たちは、問いかけに対する反応がよく、互いに教え合う場面もよく見られる。英語に対する苦手意識のある生徒も多くいるが、何とかして英語を使おうとする姿勢も見られる。一方で、授業で扱った表現についてその場では使うことができるが、場面に応じて既習事項(自分の考えを相手に伝えやすい表現)を用いて会話を続けたり、「自分の考え」をまとまりのある文章で表現したりすることに困難さを感じる生徒も少なくない。このような困難さを生み出すのは、教科書の本文から離れ、新出文法事項のみを取り出して定着をはかる1時間完結型の授業を行い、場面に応じて既習事項を用いて自分の考えを発表する機会が少なかったためだと考えられる。そこで、Unit Questionに対する「自分の考え」について、単元を通して追究することで、伝えたい自分の考えが、まとまりのある文章にブラッシュアップされ、自分の考えを自分の言葉で発表する力を伸ばせると考えた。

本単元では、絶滅のおそれのある動物が取り上げられており、国際自然保護連合(IUCN)が世界の絶滅のおそれのある動物についてまとめたRed Listから多くの動物が絶滅の危機に瀕していることを学ぶことができる。また、日本のトキ、コンゴ民主共和国のゴリラについて学ぶことで、私たちが日常的に使用しているPCや携帯電話が原因で、絶滅のおそれがあることを知ることができる。

この単元の学習を通して、言語材料としては、It is (for +(人))+ to+ 動詞の原形、want + (人など) + to + 動詞の原形、let (help)+ (人など) + to + 動詞の原形を扱う。これらの表現は、「自分の考え」を発表する際に使用しやすい表現であり、本学級の生徒たちの課題に即していると考えられる。

指導にあたっては、単元を通してUnit Questionに対する「自分の考え」を伝える場面を設け、自分の考えをより深め、自分の言葉で発表する力を高めたいと願い、本単元を設定した。

(3) 単元の目標

友だちに絶滅のおそれのある動物についてのことやそれに対する自分の考えなどを伝えるために、社会的な話題(動物の生態や絶滅の原因など)について書かれた英文を読んで、その情報をふまえて、既習事項を用いて、自分の考えをまとまりのある文章で、発表することができる。

(4) 単元の評価規準

評価規準(「話すこと」[発表]の評価規準)

学習指導要領との関わり「話すこと」[発表]ウ		
社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(知識) It is (for +(人))+ to+ 動詞の原形の文、want + (人など) + to + 動詞の原形の文や let (help)+ (人など) + to + 動詞の原形の文を用いた文の形・意味・用法を理解している。 (技能) 絶滅のおそれのある動物について、自分の意見などを It is (for +(人))+ to+ 動詞の原形の文、want + (人など) + to + 動詞の原形を用いて、発表する技能を身につけている。	相手に絶滅のおそれのある動物についてのことを伝えるために、社会的な話題(動物の生態や絶滅の原因など)について書かれた英文を読み、読んだ情報をふまえ、自分の考えや気持ちを発表している。	相手に絶滅のおそれのある動物についてのことを伝えるために、社会的な話題(動物の生態や絶滅の原因など)について書かれた英文を読み、読んだ情報をふまえ、自分の考えや気持ちを発表しようとしている。

(5) 単元展開(11時間扱い)と評価の計画

Unit Goal 絶滅のおそれのある動物についての文章を理解し、“What do you think about endangered animals?”に対する自分の考えを発表しよう。

時間 (計)	Today's Goal (◇) と主な学習活動 (○)	◎指導・支援	知 技	思 判 表	態 度
1 (1)	◇ <u>Unit Question : "What do you think about endangered animals?"に対する自分の考えをもつことができる。</u> ○ Small Talk ○ 教師によるオーラルイントロダクション及び教科書の音声を聴き、Unit3 のテーマについて理解する。 ○ Unit Goal を確認し、Unit3 の概要を捉える。 ○ Preview を視聴して、本単元の場面設定を確認する。 ○ Unit Question に対する自分の考えをもつ。	◎ 扉絵の写真を使用して題材導入を行い、Unit3 の概要を捉えやすくする。 ◎ Unit Goal を提示し、毎時間 Goal を意識できるようにする。 ◎ 教科書の動画を視聴し、絶滅の危機にある動物についてやり取りしながら理解する。 ◎ Unit Question : "What do you think about endangered animals?" に対する現段階での考えを、短い文章でもよいのもてるようにする。		○	単元を通して評価を行う ↓
2 (3)	◇ <u>絶滅危惧種に関するポスターの内容をふまえて、"What do you think about endangered animals?"に対する自分の考えを発表することができる。</u> ○ Small Talk ○ 教師によるオーラルイントロダクション及び教科書の音声を聴いたり、教科書を黙読したりして内容を理解する。 ○ Q&A を含めた教師とのやり取りを通して、教科書本文の内容理解を深める。 ○ 音読活動 ○ It is ... (for + (人など)) + to + 動詞の原形 を用いた文の形・意味・用法を理解する。	◎ Q&A を含めた教師とのやり取りを通して本文の内容を捉えることで、日本語訳に頼らないようにする。 ◎ 新出文法については、Small Talk 等でも繰り返し扱い、形や意味に慣れていけるようにする。		○	
	○ Review (音読、Q & A) ○ リテリング活動(教科書本文の内容を自分の言葉で相手に説明する。) ○ 絶滅危惧種に関するポスターの内容をふまえて、"What do you think about endangered animals?"に対するより深めた自分の考えを発表する。 ○ 振り返り	◎ デジタル教科書(レントランス)を使用させた音読の確認と、教師とのQ&Aのやり取りで前時を思い出させる。 ◎ 自分の考えを発表することで、Unit Goal への意識をもてるようにする。 ◎ 振り返りでは、個々で動画撮影をし、提出させる。		○	
2 (5)	◇ <u>絶滅危惧種に関する会話の内容をふまえて、"What do you think about endangered animals?"に対するより深めた自分の考えを発表することができる。</u> ○ Small Talk ○ 教師によるオーラルイントロダクション及び教科書の音声を聴いたり、教科書を黙読したりして内容を理解する。 ○ Q&A を含めた教師とのやり取りを通して、教科書本文の内容理解を深める。 ○ 音読活動 ○ 会話文中の want + (人など) + to + 動詞の原形の使用場面について注目し、意味・用法を理解する。	◎ Q&A を含めた教師とのやり取りを通して本文の内容を捉えることで、日本語訳に頼らないようにする。 ◎ 新出文法については、Small Talk 等でも繰り返し扱い、形や意味に慣れていけるようにする。		○	
	○ Review (音読、Q & A) ○ リテリング活動(教科書本文の内容を自分の言葉で相手に説明する。) ○ 絶滅危惧種に関する会話の内容をふまえて、"What do you think about endangered animals?"に対するより深めた自分の考えを発表する。 ○ 振り返り	◎ デジタル教科書(レントランス)を使用させた音読の確認と、教師とのQ&Aのやり取りで前時を思い出させる。 ◎ 自分の考えを発表することで、Unit Goal への意識をもてるようにする。 ◎ 振り返りでは、個々で動画撮影をし、提出させる。		○	

2 (7)	<p>◇<u>トキに関する学級新聞の記事の内容をふまえて、”What do you think about endangered animals?”に対するより深めた自分の考えを</u>発表することができる。</p> <p>○Small Talk</p> <p>○教師によるオーラルイントロダクション及び教科書の音声を聴いたり、教科書を黙読したりして内容を理解する。</p> <p>○Q&A を含めた教師とのやり取りを通して、教科書本文の内容理解を深める。</p> <p>○音読活動</p> <p>○本文中の let【help】+(人など)+ 動詞の原形 を用いた文の形・意味・用法を理解する。</p>	<p>◎Q&A を含めた教師とのやり取りを通して本文の内容を捉えることで、日本語訳に頼らないようにする。また、教科書の Round 問題を解きながら内容理解を深められるようにする。</p> <p>◎新出文法については、Small Talk 等でも繰り返し扱い、形や意味に慣れていけるようにする。</p>	○		
本時	<p>○Review (音読、Q & A)</p> <p>○リテリング活動(教科書本文の内容を自分の言葉で相手に説明する。)</p> <p>○トキに関する学級新聞の記事の内容をふまえて、”What do you think about endangered animals?”に対するより深めた自分の考えを発表する。</p> <p>○振り返り</p>	<p>◎デジタル教科書(レントランス)を使用した音読の確認と、教師とのQ&Aのやり取りで前時を思い出させる。</p> <p>◎自分の考えを発表することで、Unit Goal への意識をもてるようにする。</p> <p>◎振り返りでは、個々で動画撮影をし、提出させる。</p>	○		
2 (9)	<p>◇<u>絶滅危惧種のゴリラについての文章を読み、その内容をふまえて、”What do you think about endangered animals?”に対するより深めた自分の考えを</u>発表することができる。</p> <p>○Small Talk</p> <p>○教師によるオーラルイントロダクション及び教科書の音声を聴いたり、教科書を黙読したりして内容を理解する。</p> <p>○Q&A を含めた教師とのやり取りを通して、教科書本文の内容理解を深める。</p> <p>○音読活動</p>	<p>◎Q&A を含めた教師とのやり取りを通して本文の内容を捉えることで、日本語訳に頼らないようにする。また、教科書の Round 問題を解きながら内容理解を深められるようにする。</p> <p>◎新出文法については、Small Talk 等でも繰り返し扱い、形や意味に慣れていけるようにする。</p>	○		
	<p>○Review (音読、Q & A)</p> <p>○リテリング活動(教科書本文の内容を自分の言葉で相手に説明する。)</p> <p>○絶滅危惧種のゴリラについての文章を読み、その内容をふまえて、”What do you think about endangered animals?”に対するより深めた自分の考えを発表する。</p> <p>○振り返り</p>	<p>◎デジタル教科書(レントランス)を使用した音読の確認と、教師とのQ&Aのやり取りで前時を思い出させる。</p> <p>◎自分の考えを発表することで、Unit Goal への意識をもてるようにする。</p> <p>◎振り返りでは、個々で動画撮影をし、提出させる。</p>	○		
1 (10)	<p>◇<u>絶滅危惧種の動物に関する初見の文章を読み、その内容をふまえて、”What do you think about endangered animals?”に対するより深めた自分の考えを</u>発表することができる。</p> <p>○Small Talk</p> <p>○絶滅の危機にある動物についての所見の文章を読み、相手に伝わるように整理する。</p> <p>○リテリング活動</p> <p>○内容をふまえて、”What do you think about endangered animals?”に対するより深めた自分の考えを発表する。</p> <p>○振り返り</p>	<p>◎Small Talk でこれまで学習した絶滅の危機にある動物についてやり取りを行うことで、Unit3 の学習内容を復習できるようにする。</p> <p>◎初見の文章を渡し、伝える目的意識をもてるようにする。</p> <p>◎自分の考えを伝えることで、Unit Goal への意識をもてるようにする。</p> <p>◎振り返りでは、個々で動画撮影をし、提出させる。</p>			
1 (11)	<p>◇<u>Unit Question に対しての自分の考えを</u>発表する。</p> <p>○Small Talk</p> <p>○Unit Question に対する自分の考えを発表しよう。</p>	<p>◎Small Talk でこれまで学習した絶滅の危機にある動物について、またその理由等についてもやり取りすることで、Unit3 全体を振り返られるようにする。</p> <p>◎Unit Question に対する自分の考えをまとめる。第1時よりも深められるようにする。</p>			

単元を通して評価を行う



(6) 本時の学習指導案

① 本時の位置 (全11時間中第7時)

前時: トキに関する学級新聞の概要について理解を深め、音読練習を行う。

次時: 絶滅危惧種のゴリラについての文章の概要について理解を深め、音読練習を行う。

② 主眼

トキについての学級新聞を読み、その概要を理解した生徒たちが、本文の内容をリテリングしたり、友だちの考えを参考(中間評価)にしたりすることを通して、“What do you think about endangered animals?”に対するより深めた自分の考えを発表することができる。

③ 指導上の留意点

- ・伝える内容を構成することに困難を抱えている生徒には、Unit Question に対する考えをまとめたスプレッドシートを参考にするように促す。

過程	学習活動	◎予想される生徒の反応や意識	支援(・)と評価()	時間
導 入	Today's Goal: "What do you think about endangered animals?" に対するより深めた自分の考えを発表しよう。			
	1 音読練習を行う。 ①自力で一通り読んでみる。 ②読みづらい所を確認する。 ③ペアで音読練習する。 リテリングにつながる、後半の2段落のみ行う。 2 Review ・前時で扱ったトキについての学級新聞の内容を復習する。	◎一度読んだ後、苦手な発音や文章を中心に、レントランスを使って確認するだろう。 ◎前時で扱ったトキについての学級新聞の内容をふまえてやり取りを行うだろう。 ・T: Can we see many <i>toki</i> in Japan now? S: No, we can't. T: Could we see many <i>toki</i> in Japan before? S: Yes, we could. T: What happened in 1981? S: Five ibises were captured on Sado Island for breeding. T: What happened in 2003? S: The last ibis died.	・一通り読み終わった後、レントランスを使って、読めなかった表現を中心に繰り返し聞いたり、発音し直したりするよう促す。 ・本文を読みながらやり取りし、前時学習した内容を簡単に振り返られるようにする。 ・リテリングに使えるような部分を中心とした振り返りを行い、次の活動の手助けになるようにする。	5 5
展 開	3 リテリングの内容を考える。	◎リテリングに使う写真を見て教科書の中から Key word / phrase を抜き出すだろう。 ◎ワークシートにリテリングする内容を書くだろう。	・Review でのやりとりをふまえて、リテリングに使えるような Key word / phrase を考えるように促す。 ・ペアで相談しても良いことを伝える。	5
	4 リテリングを行う。 ①相手に伝える。	◎ワークシートに書いた内容を用いてペアでリテリングするだろう。	・リテリングする際はワークシートをそのまま音読しないように伝える。	5
	②全体共有する。 5 Unit Question "What do	◎本文の内容をふまえて、Unit を	・書けない生徒には、Unit	5 22

	<p>you think about endangered animals?”に対する自分の考えをもつ。</p> <p>①自分の考えをまとめる。</p> <p>②考えをペアで発表しあう。</p> <p>③全体共有する。(中間評価)</p> <p>④もう一度自分の考えを練り直す。</p> <p>⑤もう一度ペアで発表しあう。</p>	<p>貫く問い、“What do you think about endangered animals?”に対する考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • I'm very sad …… • I'm surprised……続きはどんなことを書けばよいだろう。 • 理由を英語で何と言えよいだろう。 <p>③考えをペアで発表するだろう。</p> <p>④発表を聞いて、表現を参考にするだろう。</p> <p>⑤全体共有で確認した表現を参考にし、発表内容をもう一度考えるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • I'm very sad because the last Japanese ibises died in 2003. • The Chinese government is very kind. So, I'm surprised. • We must stop destroying the animal's environment. <p>⑥練り直した内容をもう一度発表しあうだろう。</p>	<p>Question に対する考えをまとめたスプレッドシートを参考に促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発表する際はワークシートを見ないで話すよう促す。 • 思いを伝える際に使う表現を中心に取り上げ、参考にできるようにする。 	
<p>終末</p>	<p>6 カメラに向かって、自分の考えを発表し録画する。</p>	<p>⑥発表を動画に残して提出するだろう。</p>	<p>• 録画したものを提出するように伝える。</p> <p>より深めた自分の考えを発表しているか。</p>	<p>3</p>

2. 実践を通して明らかになったこと・課題

<リテリング>

These are Meg and Kaite. They are talking about Original Japanese ibises. Original Japanese ibises are endangered Animals. The last one died in 2003. So Chinese-born ibises were a gift from the Chinese government in the 1990s.

<自分の考え>
 “What do you think about endangered animals”に対する自分の考えを発表する準備をしよう!
 I learned that Original Japanese ibises are endangered Animals and they were died in 2003. I want to help endangered Animals because they need us help.

<New Words>

let	～させる	breed	飼育する
until	～まで(ずっと)	safely	安全に
era	時代	die	死ぬ
population	人口・個体数	government	政府
rapidly	急速に・速やかに	fly	飛ぶ
feather	羽	crested ibis	トキ
development	開発	-born	～生まれの
destroy	破壊する	up until	～まで
environment	環境	one by one	一つ一つ
capture	捕(つか)まえる		

<文法チェック>
 <Key Sentence>
 Let us give you one example. (私たちに、例を上げさせてください。)
 People helped *toki* live safely. (人々は、トキが安全に生きるのを助けました。)
 <ポイント>
 ・<let + ○○ + 動詞の原形>で、「○○に～させる。」
 ・<help + ○○ + 動詞の原形>で、「○○が～するのを助ける。」

<リテリング>

They are Meg and Kaite. Let us give you one example from the Red List. The last original Japanese ibises died in 2003. Chinese-born ibises were a gift from the Chinese government in the 1990s.

<自分の考え>
 “What do you think about endangered animals”に対する自分の考えを発表する準備をしよう!
 I think surprised. Because there are many endangered animals in Japan. Chinese government helped of endangered animals in Japan. We must need to know.

<New Words>

let	～させる	breed	飼育する
until	～まで(ずっと)	safely	安全に
era	時代	die	死ぬ
population	人口・個体数	government	政府
rapidly	急速に・速やかに	fly	飛ぶ
feather	羽	crested ibis	トキ
development	開発	-born	～生まれの
destroy	破壊する	up until	～まで
environment	環境	one by one	一つ一つ
capture	捕(つか)まえる		

<文法チェック>
 <Key Sentence>
 Let us give you one example. (私たちに、例を上げさせてください。)
 People helped *toki* live safely. (人々は、トキが安全に生きるのを助けました。)
 <ポイント>
 ・<let + ○○ + 動詞の原形>で、「○○に～させる。」
 ・<help + ○○ + 動詞の原形>で、「○○が～するのを助ける。」

<リテリング>

They were a gift from the Chinese government in the 1970s.

These are Kaite and Meg. They are talking about endangered animals.

Ibis is in the Red List. The original Japanese ibises are all died in 2003. But, Chinese government gives us the Chinese-born ibises in the 1970s.

tobi ← Red List, endangered animals.

<自分の考え>
 "What do you think about endangered animals"に対する自分の考えを発表する準備をしよう!
 I think we have to help the endangered animals. And I feel Chinese government gives us the ibises is very great.
 We must breed the ibises to safely.

<New Words>

let	～させる	breed	飼育する
until	～まで(ずっと)	safely	安全に
era	時代	die	死ぬ
population	人口・個体数	government	政府
rapidly	急速に・速やかに	fly	飛ぶ
feather	羽	crested ibis	トキ
development	開発	-born	～生まれの
destroy	破壊する	up until	～まで
environment	環境	one by one	一つ一つ
capture	捕(つか)まえる		

<文法チェック>
 <Key Sentence>
 Let us give you one example. (私たちに、例を上げさせてください。)
 People helped toki live safely. (人々は、トキが安全に生きるのを助けました。)
 <ポイント>
 <let + ○○ + 動詞の原形>で、「○○に～させる。」
 <help + ○○ + 動詞の原形>で、「○○が～するのを助ける。」

- Unit Question: “What do you think about endangered animals?”を設定し毎時間自分の考えを書きためていくことで少しずつ分量が増え、内容についても学習したことをもとにして表現できる生徒が増えてきた。
- 「読んだことを話す」といった領域統合を継続して行うとよい。
- 友だちの表現を参考にできるように、スプレッドシートに考えを書きためていけるとよい。
- Today’s Goal は毎時間細かく設定し、生徒が目標に向かえるようにする。
- 本文の内容理解のために retelling を行ったが、生徒の認識とこちらの意図を一致させるために、何のために retelling をするのか明確にする必要がある。
- retelling する際は、必要な情報、概要、要点など何を読み取らせたいか明確にする。

• retelling の際には、読み取ったことをもとに自分が一番心に残ったこと、伝えたいことなど本当に生徒が相手に伝えたいと思ったことを伝えられるようにする必要がある。使用するイラストを教師側であらかじめ選んでいたが、生徒が必要とするイラストとは異なることもあるので、生徒が自ら選択できるようにする。

• retelling に力を入れた結果、生徒たちもそれに応えようとして教科書本文から必要な文章を抜き出したり、伝えようとしている内容を一生懸命書いたりして準備をする生徒が増えた。また、発表の際にそれを読むことに意識がいつてしまうことに繋がってしまった。キーワードだけをメモし、可能な限り自分の言葉で retelling できるようにしていく工夫が必要。

• 自分の考えを発表する際にも「考えを書いて整理する→それを読み上げてしまう」という流れになってしまったので、もう少し即興的に話ができるようにしていく必要がある。

• Today’s Goal に向かって教師主導で進めるのではなく、様々な方法を準備し生徒が選択できるような工夫をする。

3. 助言を求めたいこと

- Retelling の実践例や工夫していることなどがあれば教えていただきたい。
- Unit Question の設定について

単元を通して力を育む単元構想

1. 発表の要点

「書くこと」を単元の中で行う言語活動とした際、生徒の興味関心や願いに沿った単元目標の設定と単元展開の在り方を課題としていた。本単元では「ALTの先生におすすめの日本の旅行先について紹介文を書こう！」を単元の目標とし、単元を通して木曾町・長野を紹介する文を書き、単元末に日本の旅行先を紹介する英文を書いた。成果としては、単元の中で言語活動を繰り返し行うことで、生徒も教師も、単元の中での成長を振り返ったり評価したりすることができたことが挙げられる。課題は、各言語活動の間の中間指導で、困っていることやわからない表現などの共有を行ったが、十分に深まらなかったことである。目指したい姿（単元末）に向かってどのような手立てができるか、中間指導や共有の質を高めるための手立てについて、ご意見をいただきたい。

2. 実践事例

(1) 単元名 NEW CROWN2 Lesson4 Uluru

(2) 単元の指導計画と評価計画

	学習活動 (□本時)	評価方法 (・学習改善につなげる評価、☆記録に残す評価)
1	<p>ねらい：教師のモデルや教科書のモデル会話から、単元末の目指す姿を共有し、単元の見通しをもつ。</p> <p>○おすすめの旅行先についての教師のモデルを見たり教科書 (p. 52) のモデル会話を読んだりして、単元の目標を把握する。</p> <p>○教師のモデルや教科書のモデル会話から聞きとったり読みとったりしたことについて、生徒同士でやりとりをする。</p> <p style="text-align: center;">Unit Goal おすすめの日本の旅行先について紹介文を書こう</p>	<p>・紹介文を書くことの見通しをもつために、モデルの紹介から、場所についての紹介や理由を表す英語表現への気づきを促す。</p>
2 本時	<p>ねらい：ALTに向けて、この町を好きになってもらえるような木曾町の紹介文を書く。</p> <p>○ペアで相談しながら書きたい情報をメモにまとめ、ロイロノートに紹介文を記入する。</p>	<p>・文法等の指導だけでなく、表現する内容や構成等の点からも指導する。</p>
3	<p>ねらい：教科書のケイトのスピーチ (p. 54) を読み、読みとったことを伝え合う。</p> <p>○ケイトのスピーチを読んで、ウルルについてわかったことを生徒同士で伝え合う。</p> <p>○文法事項を学び、気持ちを表す表現について考える。</p>	<p>・教科書のどの文から読み取れたか、まで伝え合えるよう指導する。</p>

4		ねらい：ALT に、おすすめの長野県の観光地について、事実や自分の考えを整理しながら紹介文を書く。	
5	○おすすめしたい観光地について調べ、情報を整理しながら紹介文を書く。 ○生徒同士で作品を共有し合い、自分が書く内容や英語表現を考える。		・文法等の指導だけでなく、表現する内容や構成等の点からも指導する。
6		ねらい：教科書のコラム (pp. 56-57) を読み、わかったことを伝え合ったり、感想を書いたりする。	
7	○ウルルについて書かれたガイドブックのコラムを読み、概要や要点をとらえたり、書き手が一番伝えたいことについて意見を出し合ったりする。		・書き手がなぜそのメッセージを伝えなかったのか、理由にも着目できるように促す。
8	○観光をするときに気を付けた方がいいことについて書いたり、グループで話し合ったりする。		
9		ねらい：ALT に向けておすすめのための日本の旅行先について紹介文を書く場面で、学んだ表現をもとに自分の考えや情報を整理しながら、理由や思いを具体的に示して英文を書く。	
10	○おすすめしたい観光地について調べ、情報を整理しながら紹介文を書く。 ○生徒同士で作品を共有し合い、自分が書く内容や英語表現を考える。		・文法等の指導だけでなく、表現する内容や構成等の点からも指導する。 ☆紹介文の中で、英語を正確に使用できているかという点と、内容が目的や場面、状況等に応じた適切な内容になっているかという点の、2点から評価する。

(3) 本時案 (全11時間中第2時)

【1】主眼

ALT に向けて木曾町の紹介文を書く場面で、ALT が知りたい情報や好きなことに着目し、教師のモデルを参考にしたりペアで内容について話し合ったりしながら紹介文を書く活動を通して、ALT が木曾を好きになってもらえるような英文を書くことができる。

【2】指導上の留意点

- ・英文を書く場面では、書きたい情報を調べる時間に重点が置かれすぎないように、机間巡視をしながら支援を行っていく。
- ・他のペアの紹介文の表現を参考にしたり、意見交換を行ったりできるように、ロイロノートの共有ノートを用いる。

【3】展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導・ <input type="checkbox"/> 評価	時間
導入	1. Greeting			5
	2. Small Talk 「Where is your favorite places in Kiso?」	ア 理由はどうやって言おうかな。	・ALTとモデル会話を提示する。 ・同じ話題について、ペアで即興で英語で話させる。	
	3. 前時のふり返しをする	イ 写真について話していたな。	・前時に扱った教科書の本文について、口頭で質問をしながら確認をする。	2

	4. Today's Goalを確認する	ウ 自分だったら何を紹介しようかな。 エ この表現は使えそうだな。	・話の内容がわかるように、イラストや写真等を用いながらモデルを示し、イメージをもたせる。	5
Today's Goal トム先生に木曾を好きになってもらえるような紹介文を書こう！				
展 開	5. 活動の仕方を確認する	オ 食べ物だったらなにがいいかな。	・ペアで1つの紹介文を作ることができるよう、活動の流れを表示する。 ・どんな情報を入れるとよさそうか生徒に聞き、板書する。(食べ物、場所、自然など)	2
	6. ペアで相談しながら書きたい情報をメモにまとめ、ロイロノートに紹介文を記入する	カ トム先生は△△が好きだと言っていたから□□はどうかな。 キ 「○○があります」はどうやって言えるかな。	・机間巡視し、表現に困っている生徒に支援をする。	15
	7. 他のペアの紹介文を読み、意見交換をする	ク こうやって表現することもできるんだな。 ケ この工夫を私たちも取り入れたいな。	・他のペアの作品を読み、取り入れたいと思った表現や困ったことなどを全体で共有する。 ・お互いのよかったところや工夫するともっとよくなることを伝え合うようにする。	5
	8. 自分達の書いた英作文を見直し、加筆修正する	コ □□さんの表現を参考にしよう。	・机間巡視し、表現に困っている生徒に支援をする。	6
ま と め	9. ALT に紹介文を発表する	サ おすすめしたいことが伝わるかな。	・発表する際に、発音等困ることがないか支援をしてから発表させる。	5
	10. 振り返りカードに本時のまとめを記入する	シ ペアで相談しながら書くことができたな。 ス 書きたいことを伝えることができたな。	・振り返りカードに、工夫したところ、友達の英文を見て参考になったところなどを記入させる。	5
			○評価 ・ALT に木曾を好きになってもらえるような工夫をできているか、紹介文やふりかえりカードの記述から、評価し、指導する。	

3. 成果・学習の様子

・「相手意識をもって考えを英語で表現してほしい」という願いのもと、導入において”What do you like to do for a trip?” をテーマにALTとやりとりをした。その中でALTが“I like nature. I like playing golf very much.”と言ったことに対し、その要素を考慮した場所を提案する文を書いた生徒の姿があった。また、ペアでやり取りをしながら書く中で、ALTの好きなことや趣味を意識しながら、文を増やしていく姿があった(写真①)。

・ICTの活用(ロイロノートの共有)により、他の生徒の表現を参考にしたり、前時の表現を確認したりすることが容易になった。友達の発表や文を見て意見を述べ合う際にも効果的であった。「他の人は自分が使っていない表現や文法を使っていたので、私も色々な表現をできるようにしたい。」というふりかえりの記述も見られた。

・単元の中で言語活動を繰り返し行うことで、「次はもっとこうしたい」という思いや「前よりも表現できるようになってきた」という自信を持たせることができた。生徒も教師も、単元の中での成長を振り返ったり評価したりすることができた。

写真①

First, I recommend Kiso Country Club.
There is a lot of nature. You can play golf and take a picture of beautiful view.
You can see Mt. Ontake from there.



I recommend Okinawa.
It's in the south of Japan.
Churaumi aquarium is in Okinawa.
You can see whale Shark and Nanyou Manta rays.



There is an island, Kourijima in Okinawa.
Kourijima has beautiful beach and heartrock.



The scenery is very beautiful!
You can take picture.
If you have chance, please go.

4. 課題

・生徒同士で共有したり意見を述べあったりする際に、お互いに見合っただけで終わり、ということがあった。どこに焦点を当てて共有するのかを示し、共有の質を高めていきたい。

・言語活動の間の中間指導で、目指したい姿(単元末)に向かってどのような手立てができるかが曖昧になってしまった。「こうなってほしい」という目指す姿を明確にもって生徒にも共有すること、生徒のよかった姿を取り上げて共有すること、ポイント(ターゲットセンテンスや文法など)を提示することなど、状況に合わせて指導できるようにしたい。

5. 先生方にご意見いただきたいこと

- ・中間評価(指導)のやり方、工夫されている点
- ・単元目標の設定で工夫されている点

支部名 上伊那

職場名 辰野南小学校

氏名 大塚 亜耶

【全校研究テーマ】

子どもたちが主体的につたあえあい，こたえあい，うけとめるような授業づくり

【外国語・外国語活動研究テーマ】

子どもたちが自信をもって考えや気持ちを伝え合うようになるための，外国語活動の授業づくりはどうあったらよいか

一 単元名 Let's Try1 Unit5 What do you like?

二 単元にかかわる子どもの実態と単元設定の理由

3年にじいろ学級の児童は、男女の仲が良く、明るく元気な子が多い。学習に積極的に取り組み、授業中の発言も多い。一方で、自分から手を挙げて、いざ全体の前で自分の考えを伝えようとする、言い方がわからなかったり自信をもって言えなかったりして、言葉に詰まってしまう児童の姿も見られる。そのような姿から、本校では「子どもたちが主体的につたえあい、こたえあい、うけとめるような授業づくり」を全校研究テーマとして、授業づくりに励んでいる。

外国語活動では、1・2年生の英語あそびの時間で英語に慣れ親しんできており、外国語活動に対する意欲が高く、楽しみながら取り組む児童が多い。廊下で会ったときには、その日学んだ表現を使って英語で話そうとする児童もいる。そんな子どもたちに、授業の中でうなずきや“Nice.” “Oh!” “Me too.”といった反応や、身振り手振りを入れながら伝えようとする児童の姿を意識して広めてきたところ、その反応を使いながらやり取りする児童が増えるなど、積極的にコミュニケーションを取ろうとする児童が見られるようになってきた。そのような友だちのよい姿を全体で共有することは、子どもたちが自信をもって表現するのに有効であると感じた。また、Let's Try1 Unit3 How many?の授業では、クラスの友だちと数を尋ねるクイズを作り、出し合って楽しむ場面で、1～20までの数の言い方に慣れ親しみ、相手に伝わるように工夫しながら数を尋ねたり答えたりする活動を行った。「クラスの友だちに数のクイズを出す」という Unit Goal に向け、少しずつ活動の内容を変えてクラスの仲間と繰り返しやり取りし、積み重ねていくことで、学習した言語材料について自信をもって伝え合える姿が見られるようになってきた。このことから、子どもたちのやり取りの中で、スモールステップで学びを積み重ね、繰り返し言語材料に慣れ親しむことや、子どもたちがやりたくなるような場面設定や Unit Goal を設定することは、子どもたちへの支援として有効だと感じた。

本単元は、言語材料である What do you like? / What (名詞) do you like? / I like～. の表現を使って、何が好きかを尋ねたり答えたりして、相手に伝わるように工夫しながら紹介することを目標としている。にじいろ学年は、総合的な学習の時間でハロウィンパーティーを計画している。ハロウィンの衣装のためのハロウィンハットを、クラスの友だちに聞いた好きな飾りで飾り付けることは、外国の文化に親しみながら、興味や関心をもって取り組むことができる場面設定だと考えた。ハロウィンハットを贈るペアとのやり取りによって、相手の好きなものをよく知ることができ、相手に喜んでもらえるように工夫して作ったことを伝えたいと相手意識をもってやり取りするだろう。このような相手意識をもってやり取りする活動は外国語活動では初めて行うため、安心して取り組めるようにクラスの学習グループの仲間でペアを組むようにする。相手を替えて繰り返し練習したり、話すときに意識する視点(ナイスポイント)を決めだし、ポイントシールを渡しながらいとこころやよりよくなることを伝えあったりすることで、子どもたちが楽しく取り組めるようにしたい。

友だちに喜んでもらえるように考えて作ったハロウィンハットを紹介することを通して、相手が受け止めてくれる安心感の中で思いを伝え合うことを楽しんでほしいと願い、本単元を設定した。

三 教材研究

1 言語材料

I (You) like ~. / What do you like? / What (名詞) do you like?

2 言語材料の価値

(1)話題 ハロウィン

児童が、外国の文化として興味や関心をもって取り組むことができる。

(2)場面 ハロウィンハットを友だちのために作る、それを紹介する

What do you like? / You like ~.等の表現を使って、友だちと好きなものを尋ねたり紹介したりするやり取りが体験できる。

(3)表現 What (名詞) do you like? / I like ~.

好きなものを尋ねることに加え、カテゴリーを限定することで答えやすさを感じることができる。

四 単元の目標と展開

1 単元の目標

友だちの好みに合うハロウィンハットを作るために何が好きかを尋ねたり答えたりして、できあがったハットの推しポイントを贈る相手に伝わるように工夫しながら紹介している。

・Unit Goal

ハロウィンパーティを楽しむために、友だちにハロウィンハットを作ってプレゼントしよう！

・辰野南小 Try リスト (3年 話すこと (発表))

ア 身の回りのものについて、人前で実ものなどを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。

2 本単元の評価規準 話すこと [発表] (ア)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
What (名詞) do you like?を用いて相手に好きなものを尋ねたり、それに対して答えたり、You like~.など簡単な既習表現を使って紹介したいことを話したりすることに慣れ親しむ。	友だちに作ったハロウィンハットの推しポイントを伝えるために、声の大きさやジェスチャーなど聞き手に配慮してハロウィンハットの紹介をしている。	友だちに作ったハロウィンハットの推しポイントを伝えるために、声の大きさやジェスチャーなど聞き手に配慮してハロウィンハットの紹介をしようとしている。

3 単元展開の概要

ハロウィンパーティ実行に向けたハロウィンカボチャの栽培や計画は総合的な学習の時間に行う。ハロウィンマントやハロウィンハットの仮装は図画工作の時間に制作をし、パーティ用のお菓子は社会の「店で働く人」の学習で買えるものをするなど、外国語活動以外にも横断的な学習として進める。

時	目標	学習活動	評価の観点 【知・技】【思・判・表】【主】
1	自分の好きなものを伝え合おう	<ul style="list-style-type: none"> ・教師から ALT へハロウィンハットを贈る。 ・Unit Goal を共有する。 ・ALT から外国のハロウィンの話を聞く。 ・色、食べもの (お菓子)、形、動もの、モンスターの単語を確認する。 ・Talk カードで好きなものを伝え合う練習をする。 ・教師からの質問に、自分の好きなものを英語で答える。 	◎Unit Goal に関心をもっている。 ○I like~.を用いて自分の好きなものを伝えている。 【知・技】【主】 〈行動観察・振り返りの記録〉 *学習改善につなげる評価
Unit Goal ハロウィンパーティを楽しむために、友だちにハロウィンハットを作ってプレゼントしよう！			
2	好きなものを尋ねたり、答えたりしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と ALT の会話を聞き、好きなものの尋ね方の見通しをもつ。 ・前時に学習した単語を使い、Talk カードで好きなものを尋ね合う練習をする。 ・Unit5 Activity1 で、友達の好きなものを予想して尋ね合う。 ・What do you like? を使ってペアとインタビューをし合い、相手が好きな飾りを集める。 	◎好きなものを英語で尋ねたり、それに対して答えたりしている。 【知・技】 〈行動観察・振り返りの記録〉 *学習改善につなげる評価

3	カテゴリーの中で、何が好きかを尋ねたり答えたりしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・教師とALTのWhat(名詞)do you like?のやり取りを聞き、尋ね方の見通しをもつ。 ・What(名詞)do you like?ビンゴで、カテゴリー内から好きなものを尋ねたり、答えたりする。カテゴリーを変え、ビンゴを繰り返してやり取りを練習する。 ・What(名詞)do you like?を使ってペアとインタビューをし合い、相手が好きな飾りを集める。 	<p>◎カテゴリーの中から、好きなものを英語で尋ねたり、それに対して答えたりしている。</p> <p>【知・技】 〈行動観察・振り返りの記録〉 *学習改善につなげる評価</p>
4	ペアに贈るハロウィンハットの推しポイントを見つけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアが喜ぶように飾りの位置を工夫したり、飾りを増やしたりして完成させたハロウィンハットの、推しポイントは何かを考える。 ・作ったハロウィンハットの推しポイントを紹介するために、既習表現を復習する。 ・伝えたい推しポイントを短い英語でまとめ、動画を撮って見てみる。 	<p>◎紹介したいポイントを、既習表現を使って簡単に話している。</p> <p>【思・判・表】【主】 〈行動観察・振り返りの記録〉 *学習改善につなげる評価</p>
5 本時	推しポイントが伝わるように、作ったハロウィンハットを紹介する練習をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がALTにハロウィンハットの紹介をしながらプレゼントする場面を見て、活動の見通しをもつ。 ・学習グループの友だちとペアを作り、練習し合う。 ・中間指導で、困り感やよかった姿を共有し、話すときに意識する視点を設定する。 ・アドバイスやナイスポイントシールをもとに、ペアを替えて再び練習をする。 	<p>◎推しポイントを伝えるために、話す視点を意識して練習し、話している。</p> <p>【知・技】【思・判・表】【主】 〈行動観察・振り返りの記録〉 *記録に残す評価</p>
6	ペアに気持ちが伝わるように、ハロウィンハットをプレゼントし合おう	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアのために作ったハロウィンハットについて、簡単な英語で紹介しながら渡す。 ・もらったハロウィンハットを被って、What do you like?やI like(名詞)などの表現を使って友だちとやり取りをする。 ・単元全体の振り返りをする。 	<p>◎前時の練習を基に、工夫して紹介している。</p> <p>○友だちの紹介を聞いて、リアクションをしている。</p> <p>【知・技】【思・判・表】【主】 〈行動観察・振り返りの記録〉 *記録に残す評価</p>

五 本時案

1 主眼

友だちが喜ぶハロウィンハットを作るために、何が好きなのかを尋ねる表現に慣れ親しんできた子どもたちが、ハロウィンハットの「推しポイント」を伝えるために練習する場面で、話すときに意識する視点を決めだし、相手を替え繰り返し練習したり、よい点やよりよくなる点を伝えあったりすることを通して、「推しポイント」が伝わるように話している。

2 本時の位置 (全6時間中 第5時)

前時: Unit 5 ペアに贈るハロウィンハットの推しポイントを見つけよう。

次時: Unit 5 ペアに気持ちが伝わるように、ハロウィンハットをプレゼントしよう。

3 指導上の留意点

- (1) 板書は、英語を想起させるような、視覚的に分かりやすい掲示の工夫をする。
- (2) 単語などの発音に困った場合は、友だち同士で教え合ったりタブレットで音声を確認したりしてもよいことを伝える。
- (3) 今回、複数形のsについては、厳密に扱っていなくてもよいものとする。

4 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・支援 (評価)	時
導入	1.あいさつをする。 2.活動の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・I'm good. ・そのまま渡した時よりジル先生がすごく喜んでいる。 ・友だちの好きなものを伝えるときは You like~.と言うんだ。 ・前回考えた推しポイントを英語で伝えてみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの活動が楽しみになるように気分を明るく尋ねる。 ・教師がALTにハロウィンハットの紹介しながらプレゼントする場面を見せる。 ・やり取りを見た後、渡すときにどのように話していたかに注目するように促す。 	5
	<p>Today's Goal ペアに推しポイントが伝わるように、作ったハロウィンハットを紹介する練習をしよう</p>			
展開	3.学習グループ内でペアを作り、紹介を聞き合い、練習をする。 (1ペア5分×2)	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前にプレゼントするペアがいるつもりで練習しよう。 ・大きな声で話していてよかったよ。 ・8って何だっけ。友だちに聞いてみよう。 ・聞いていてもなんて言ってあげればいいのか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介を聞き合い、よかったところを伝え合うよう指示する。 ・忘れた単語や表現は、友だちに聞いたり、タブレットの音声で確認したりしてもよいことを伝える。 ・どちらも話し始められないペアに対しては、教師が一緒に入って練習する。 	10
	4.友だちとの練習でよかったことや困ったことを共有する。 (中間指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・上手く言えなかった。 ・〇〇さんがハロウィンハットの飾りを指さしながら話していることがよかった。 ・先生たちが笑顔で話していて楽しそうだな。 ・今まで意識してきたジェスチャーを入れて話したいな。 ・ハロウィンハットばかりでなく相手の顔も見てはっきり話したい。 ・練習が終わった後にI'm happy!と言って拍手をしてくれて嬉しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習してみてどうだったかを尋ねる。 ・友だちのよかったところや気づいたことを発表するように促す。 ・必要があれば教師のデモンストレーションをもう一度示す。 ・何を大切にすれば推しポイントが伝わりやすいかを問いかけ、子どもたちから出た視点をナイスポイントとし、板書する。(ジェスチャー・スマイル・はっきりゆっくり話す等) ・聞く側のよかった姿も取り上げる。(うなづき・Nice・ジェスチャー等) 	10
	5.話すときに意識する視点(ナイスポイント)やよりよくなる点を伝えながら、再び紹介の練習をし合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも意識しているジェスチャーがよかったよ。 ・聞きやすい声でよかった。 ・目を見て話してくれてうれしかったよ。 ・もう少しゆっくり話すといいよとアドバイスをもらったから次は速さを意識してみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話すときに意識する視点(ナイスポイント)を意識しながら紹介を聞き、ペアによかったポイントのシールを貼るよう伝える。 ・シールを貼るときに、よりよくなる一言も添えるよう伝える。 	20

	<p>①学習グループ内のまだ組んでいないペアで練習する。(5分)</p> <p>②最初のペアと練習する。(5分×2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一番の押しポイントを最初に伝えてみよう。 ・最初に話したときよりも、心配しないで言えるようになったぞ。 ・ナイスって言われるとうれしいね。 ・次のペアと練習する前に、もう一度言ってみよう。 ・最初に聞いたときよりも、飾りを指さすジェスチャーがあってわかりやすいな。 ・早くは言えないから、ゆっくり丁寧に話してみよう。 ・先生のアドバイスで3 pumpkins を入れてみたらいい感じになった。 ・You like star.の後に one,two,three,four, five 5stars! って指さしながら数えてみたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習していく中で、話す内容や順番を変えてもいいことを伝える。 ・話すときに意識する視点(ナイスポイント)を意識して話している児童に対して、認めるような声かけをする。 ・早く終わったら、それぞれ一人で練習する時間を取ってもよいことを伝える。 ・1回目と2回目の変化を意識して聞くよう促す。 ・自分でなかなか話したせない児童や工夫してやり取りしている児童を見とり、声をかける。 <div data-bbox="933 672 1476 862" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価【思・判・表】 押しポイントを伝えるために、話す視点を意識して練習し、話している。 (紹介練習、やり取り、振り返り)</p> </div>	
振り返り	<p>6.本時を振り返る。</p> <p>7.あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日はたくさん話せるようになったからうれしかったよ。 ・友だちに伝わりやすいように、ジェスチャーを付けながら話せた。 ・ナイスポイントを意識したら、よく聞けた。 ・最初は自信がなかったけれど、いろんな人と練習するうちに堂々と言えるようになってきた。 ・友だちの紹介を聞いていて、飾りの数も紹介することにしたよ。 ・3枚ともジェスチャーシールだったから、ジェスチャーに自信がもてた。 ・押しポイントをしっかりアピールして、作ったハロウィンハットを喜んでくれるといいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Form で振り返りをするよう伝える。 ① 押しポイントが伝わるように話せた。 (押しポイントを伝えるために工夫したことを選択) ② 話すときに意識する視点(ナイスポイント)に注目して友だちの紹介を聞いた。 ③ 繰り返し練習したから、自信を持って渡せそうだ。 ・回答を共有した後、話すときに意識する視点(ナイスポイント)を見合い、子どもたちの言葉で振り返りを発表するよう声をかける。 ・次時はハロウィンハットを作ったペアに、作品を紹介をしながらプレゼントし合うことを確認する。 	5

【授業の視点】

- 押しポイントが伝わるように、ペアを替えながら繰り返し練習したことは、子どもたちが自信をもって紹介する手立てとして有効だったか。
- 中間指導で、話すときに意識する視点(ナイスポイント)を決めだし、シールを渡しながらよさを伝え合ったことは、子どもたちが主体的に伝え合う姿につながったか。

【Google Form でのふりかえりシート】

①おしポイントが伝わるように話せた（いくつでもよい） *

- ナイスポイント1をいしきして話せた
- ナイスポイント2をいしきして話せた
- ナイスポイント3をいしきして話せた
- その他...

②ナイスポイントに注目して友だちの友だちの紹介を聞いた *

- 聞いた！
- けっこう聞いた
- まあまあ聞いた

③くり返し練習したから、じしんをもってわたせそうだ *

- じしんをもってわたせそう
- あと少しでじしんをもってわたせそう
- もう少し練習したら、じしんをもってわたせそう
- その他

既習表現や新出表現を用いて、自分の考えや気持ち、事実など、伝えたいことを相手に正しく伝わるように英語で表現するための指導のあり方

～生徒が表現したい、伝えたいという願いを持ち、主体的に追究する学び

「思考力、判断力、表現力等」を育む言語活動を通して～

I 研究の全体像

1. テーマ設定の理由

本校では「探究」を切り口に子ども主体の学習を目指して研究に取り組み、探究の学びの中で生徒たちが自らの問いや課題を持つことを大切にしている。英語科において「問いや課題を持つこと」は、「表現したい」「伝えたい」という願いを持つこととつながりがあると捉えている。

そこで、知識及び技能を活用し、目的や場面、状況等を明確にした言語活動を行うことで、生徒が英語で表現したり、互いの考えを伝え合ったりする言語活動を通して思考力、判断力、表現力等を高めたいと願い、本研究テーマを設定した。

2. 研究内容

本校英語科では、生徒自身が、伝えたいことをどうやって伝えるかを主体的に考え、既習表現や新出表現を用いて内容や表現をさらに深めながら「伝えることができた！」という達成感を感じてほしいと考える。しかし、これまで本校の生徒は、話すこと[やり取り]を行う際に、「何て言うんだらう」と会話を続けることができずにやり取りが終わってしまったり、伝えたい内容を、英語で表現することができなかつた場合に、それまでに学んだ表現に言い換えることができずにいたりした。

そこで、毎時間の授業のはじめに **Small Talk** を行い、友と英語でやり取りすることを継続的に行ってきた。**Small Talk** では、次の2点を意識して取り組んでいる。

- | |
|---|
| <p>①生徒の興味関心がある事柄や単元展開に沿ったものを話題とすることで、生徒の話そうとする気持ちを高める。</p> <p>②Small Talk を行った後に、使った表現や単語をノート等にメモすることで、やり取りを行う際に表現に困ったときには、蓄積してきたメモや教科書に立ち返るように支援している。</p> |
|---|

このようにすることで、生徒が相手と英語で伝え合うことに慣れ、授業の展開の中でも互いの考えを伝え合う言語活動に積極的に取り組むことができるようになるのではないかと考えた。

そして、**Small Talk** を継続して行うことで、次のような生徒の姿が見られるようになってきた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・時間いっぱい、なんとか相手と会話をつなげたいという願いを多くの生徒が持っている。・リアクションをするために、相手の英語を“聞こう”とする意識が高まり、その結果アイコンタクト等の非言語の部分でのコミュニケーション力も高まっている。・やり取りが発展しているペアのモデルをみて、自分たちも挑戦しようとする姿がある。・やり取りをする際、はじめはうまくいなくても、これまで蓄積してきた資料などを見返し、「こう伝えればいいんだ」と自ら気づき次へ生かそうとする姿がある。 |
|--|

このような生徒の姿からも、**Small Talk** を毎時間の冒頭に位置付け、英語科研究テーマの具現を図っていきたい。

II 単元の指導計画

1 単元名 New Horizon English Course3 Great Points in Our Hometown ～パンフレット作成に向けて、伊那市の魅力を伝え合おう～

2 単元設定の理由

今年度、本校では英語の授業において、筑北中学校の生徒との交流を行っている。7月には、第1回のZoom交流に向けて、お互いを知るために自己紹介を行い、会話を継続させて多くの情報を共有する授業を行った。そこでは、相手へのリアクションや誉め言葉、会話を続けるときの表情などに気を配り、会話が止まりそうになると別の話題を出すなど、会話をつなげる工夫をし、お互いのことをもっと知りたい、相手との会話をつなげたいと願う姿が見られた。また、質問をしていく中で相手と話が合いそうな話題が見つかり、その話題について相手と楽しそうに英語で会話をして盛り上がる姿もあった。



オンライン交流では、3学年で学習した現在完了形などを用いて自分が表現したいことを伝えている生徒もあり、振り返りの場面ではよりよい文法表現について追究する姿があった。しかし、多くの生徒はDo you～?やWhat do you～?など、小学校や中学校1年生の時に学んだ英語表現に終始する生徒が多く、好きなことや興味のあることなど伝え合う内容が限定されている姿が見られた。コミュニケーションを行う目的に応じていけば、どのような表現でもよいが、本校英語科では、これまでに学習した英語での表現を総合的に活用して伝えたい内容を伝えてほしいと願っている。また、やり取りを継続することができるようになってきた生徒たちが、自分の表現したい内容を適切な英語を用いて「伝えたいことを伝えることができた」という喜びを感じてほしいと願っている。

第1回のオンライン交流後、教師が、筑北中学校の生徒ともう一度オンライン交流できるなら、どのようなことを知りたいか尋ねると、筑北中学校の所在地をiPadで調べたり、筑北中学校の麻績村にある有名なものについて興味を示したりする姿が見られた。

以上のことから、本単元では互いの街を紹介するパンフレットを作成するために、どのような内容を記載したらよいか、友と互いの考えを伝え合う学習を構想した。生徒は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じたやり取りを行う中で、自分の経験や知識などと結び付けながら、場面や状況にあった表現を自ら選んで対応していく力を伸ばしていきたいと考え、本単元を設定した。

3 中学校学習指導要領との関わり 話すこと [やり取り] ア

関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

4 単元の目標

筑北中学校の生徒たちに伊那市の魅力を伝えるパンフレットを作るために、オンライン交流を通して知った筑北中学校の生徒の興味・関心を踏まえて、パンフレットに記載すべき内容について互いの考えや気持ちを伝え合うことができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・間接疑問文、動詞+人+whatなどで始まる節、現在分詞、過去分詞の使い方を理解している。・伊那市についてパンフレットに載せたいことや考えたことなどを、間接疑問文などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	筑北中学校の生徒たちに伊那市の魅力を伝えるパンフレットを作るために、オンライン交流を通して知った筑北中学校の生徒の興味・関心を踏まえて、パンフレットに記載すべき内容について互いの考えや気持ちを伝え合っている。	筑北中学校の生徒たちに伊那市の魅力を伝えるパンフレットを作るために、オンライン交流を通して知った筑北中学校の生徒の興味・関心を踏まえて、パンフレットに記載すべき内容について互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。

6 単元展開

Unit Goal : Let's write a pamphlet of Ina City to Chikuhoku Junior High School Student!

時間	Small Talk の話題 (★), Today's Goal (■), 言語活動等 (○)	知	思	態	備考
1	★筑北中生が伊那市に来るならどこに連れていきたい？ ■筑北中生に聞きたいことについて話し合おう！ ○第1回オンライン交流の内容を振り返り，次回の交流で尋ねたいことを伝え合う。 ○Unit Goal を設定し，伊那市と麻績村の互いの町を知るためにパンフレットを作るといふ単元の見通しをもつ。				・自分の考え等を伝える際は，語句ではなく文で伝えさせる。
2	■筑北中生と話して情報交換しよう！ ○オンライン交流を行い，筑北中学校の生徒からの質問に答えたり，麻績村について知りたいことを尋ねたりする。 ○前時で考えた質問をしたり，相手の反応や状況に応じ，質問したり答えたりして会話を継続する。				教師による記録に残す評価は毎時は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間行う。活動させていくだけに十分な留意する。
3 本時	★伊那市の好きな場所 ■筑北中生におすすめする場所と理由を、お互いに情報交換をして、パンフレットの内容を充実させよう ○英語のパンフレットを作るために，筑北中学校の生徒の興味・関心を踏まえて，パンフレットに記載すべき内容について，互いの考えや気持ちを伝え合う。				
4	★昨日の午後は何してた？ ■筑北中生におすすめする場所と理由を、お互いに情報交換をして、パンフレットの内容を充実させよう ○英語のパンフレットの内容を決めるために，筑北中学校の生徒の興味・関心を踏まえて，パンフレットに記載すべき内容について，互いの考えや気持ちを伝え合う。	○	○	○	
5	★自分の好きな人 ■筑北中生に向けてパンフレットを書こう！ ○教科書やメモを活用し，筑北中学校の生徒の興味，自分や友の経験など友とやり取りして得た情報を踏まえて，英語でパンフレットを書く。				
6	★小さいころ好きだったアニメやキャラクター ■作ったパンフレットを読んで意見を交換し合おう！ ○作成したパンフレットを読み，感じたことなどを伝え合う。 ○パンフレットを修正する。				
7	■筑北中生のパンフレットを読んで感想を伝え合おう！ ○筑北中学校の生徒が作成したパンフレットを読み，互いの考えや感想を伝え合う。 ○単元の振り返りを行う。				

7 本時案

(1) 主眼

筑北中学校の生徒に向けた伊那市のパンフレットで紹介したい場所やものについて話し合う場面で、友の表現の仕方を参考にしたり、自分の考えが伝えられているかを視点にふり返りを行ったりすることを通して、より良い表現で考えを伝え合うことができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される生徒の姿	指導・助言	時間
導入	1. Small Talk を行う	Ss: ○○ likes sweets. △△ wants to go to café.	伊那市の好きな場所について教師と ALT が会話をした後、生徒同士スモールトークをするように促す。	6
	2. 前時の学習のふり返り、Today's goalを確認する	<ul style="list-style-type: none"> • どのお店を紹介しようかな。 • あの子はスイーツが好きだっていったからあのお店を紹介しよう。 • スイーツに関する情報が欲しいな。 • 見たパンフレットはどんな情報が載っていたかな？ • ワークシートに Today's Goal を記入する。 	<p>前回のワークシートを確認してふり返りをする。</p> <p>Last time, we talked with students in Chikuhoku junior high school. What kind of information did you get? I'll give you a worksheet. Please write down this sentence.</p>	4
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Today's goal 筑北中生におすすめる場所と理由を、お互いに情報交換をして、パンフレットの内容を充実させよう。</p> </div>				
展開	3. 筑北中生からきいた情報をもとにお勧めする場所を3人グループになり、英語で話し合う 《Round 1》	<ul style="list-style-type: none"> • どんな風に紹介すればいいんだろう？ • (デモンストレーションを見て) あんな風に紹介しあえばいいのか！ • グループになる。 <p>A: They like sweets. Do you know any good sweets shop? B: Yes. I think ○○ is the best cake shop. Because I like it. A: I see. B: Okay. C: I want him to go to □□.</p>	<p>So, today, let's share information with your group members to make a pamphlet for them.</p> <ul style="list-style-type: none"> • 流れを説明する • デモンストレーションを見せる <p>First, we're going to make groups. Then, you're going to share your information.</p> <ul style="list-style-type: none"> • 会話の様子を録音するように促す。 	10
	4. Feed back をする	<ul style="list-style-type: none"> • I heard she likes cakes. 紹介する相手のことを考えていたな。 • 「Bさんは○○が一番だと言っていたよ。」とほかの人からの情報も生かせるかな。 • Cさんはおすすめる場所を紹介するときに I want him to go to □□. と言っていたな。その理由が言えるともっとよかったな。 • 自分の体験を交えて話していたな。 • ワークシートを見返してみようかな。 • 録音した会話を聞き返してみようかな。 	<p>How was your Round1? Let's think back your talking.</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ワークシートにふり返りを記入 (個人) ②グループでふり返りを共有するように指示する (グループ) ③途中経過を発表するグループを指名する。どんなポイントに気をつけながら話したか? (全体) ④ポイントが確認できたところで Round 2 に移る準備をする。(個人) 	15
	5. お互いの考えをグループでやり取りする 《Round2》	<p>A: (They told me that / I heard) they liked sweets. Do you know any good sweets shop? D: Yes. I think ○○ is the best. Because it's famous. E: Okay. I have been there before. It was nice. But I think △△ is the best. A: B said ○○ is the best cake shop, so I think I'll introduce ○○, too.</p>	<p>Let's change your group members. Based on your feedback, let's try it again.</p> <p>Round1 と同様に会話をする。</p>	7
終末	6. 本時のふり返りを行う	<ul style="list-style-type: none"> • 家族や先生から聞いた情報を使ってお勧めすることができた。 • 「実際に行ってみてこのケーキが美味しかったよ。」と具体的に伝えることができた。 • たくさん情報が得られてよかったな。 • 次は今日の情報交換をもとにパンフレットを書き始めたいな。 	<ol style="list-style-type: none"> ①ワークシートにふり返りを記入 (個人) ②グループでふり返りを共有するように指示する (グループ) <ul style="list-style-type: none"> • 相手にお勧めする場所とそのポイントについて伝えることができたかを振り返るように促す。 	8